

研究 主題	学級活動を生かしたよりよい人間関係づくりの推進 ー生徒のコミュニケーションスキルを高める活動を通してー
----------	--

第1学年1組学級活動指導案

指導月日 令和6年10月21日
 所属校名 栗原市立若柳中学校
 氏名 平山 俊太

1 題材 「よりよい学級について考えよう」

学級活動(2) ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

2 題材について

(1) 生徒の実態 [第1学年1組31名]

明るく元気で素直な生徒が多く、全体的に学校行事等にも意欲的に取り組んでいる。また、共通の目標に向けて頑張ることができ、困っている生徒に自分から声を掛け、助けることのできる生徒も多い。しかし、人間関係の固定化から話し合い活動では硬さが見られたり、相手への配慮が欠けている場面やコミュニケーションスキルの未熟さから人間関係のトラブルが起こったりする。

そこで、生徒の実態を把握するために、5月と8月にアンケートを行った。それら2回のアンケート結果を比較すると、「クラスの誰とでもコミュニケーションを取ることができますか」という質問に対しては、肯定的な回答の割合が35%から79%と増加した。また「クラスメイトや友人と会話をするとき、自分の考えや思いを伝えることができますか」という質問に対しては、肯定的な回答の割合が73%から97%に増加した。これらの結果は朝の会や帰りの会でのエンカウンターを継続的に行ってきたことや、授業実践Ⅰの取組、野外活動や体育祭等の学校行事で多くの級友と関わったり協力したりする機会が増えたことが要因の一つだと考えられる。

一方で、アンケートの「クラスの人から好かれている、仲間だと思われていると思いますか」「クラスの中にあなたの気持ちを分かってくれる人がいると思いますか」という質問に対して「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が減少した。

これらの結果を踏まえ、なぜそのようなアンケート結果になったのかを学級で考え、よりよい学級にしていくために一人一人が具体的にできることを考えさせ、よりよい人間関係を築くための取組につなげていきたい。

(2) 題材選定の理由

中学生は、小学校との環境の変化に適応する中で、学習面や生活面での違いに戸惑ったり、人間関係に悩んだりすることがある。特に、心身共に著しく成長し、思春期を迎えるこの時期は、自己同一性(アイデンティティ)を獲得していく時期でもあり、自尊心が低下したり劣等感を抱えたりする生徒もいる。そのような中、生徒が安全・安心に学校生活を送るためには良好な人間関係を築くことが重要である。

本学級では、年度初めから生徒の人間関係の固定化の解消やコミュニケーションスキルの向上を目指し、学級活動でエンカウンター等を実践してきた。それにより、生徒のアンケートのコミュニケーションに関する項目で相関関係が見られた。しかし、自己肯定感や他者から承認されているという実感が十分に得られていない生徒がいることが分かった。その背景には、生徒が「よりよい人間関係づくり」について考えたり、自分の行動を振り返ったりする機会が十分でなかったことが挙げられる。それにより生徒同士は表面的な関わりが多く、互いを認め合う関係性が築かれにくい状況があったのではないかと考える。それらを踏まえ、本題材を通して生徒が「よりよい人間関係づくり」について考え、その実現に向けて主体的に行動し、具体的な実践が行えるようになることを目指す。

今回は、生徒の発達段階を考え、活動が取り組みやすくなるように「よりよい人間関係づくり」を「よりよい学級」の視点で捉え、「学級目標」の達成について意識させる。そして、それらの達成に向けて、生徒一人一人が課題を持ち、その解決に向けた意思決定を行い、それを学級全体で共有する。「学級目

標」の達成に向けて、生徒たちが自分の役割を果たしながら、目標達成に向けて協力したり、支え合ったりしていくことを通して「よりよい人間関係づくり」につなげていきたい。

(3) 本題材における指導の工夫

学習過程については「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」に示されている学習過程（図1）を参考に進めていく。本題材では、事前アンケートの結果を生徒と共有し、現在の学級の状態を確認する。その上で、「よりよい学級づくり」について学級全体で考え、学級目標を達成するために解決すべき課題を明確にする。

まず、生徒が自分の課題についてじっくりと考え、テキストマイニングなどを活用して全体に共有する。生徒は共有された内容を参考にしながら、学級目標を達成する上での自己の課題を再考し、それぞれの課題について話し合い活動を行いながら共有する。

この際、オンライン表計算ソフトを活用して他者参照をしながら、自己の課題解決方法を検討する。このようにICTを活用することで効率的に情報を共有する。共有した情報を参考にして生徒は課題解決に向けた意思決定を行う。この際、個で考える時間を十分に確保する。また、生徒が意思決定した内容を班活動で共有する場面では、班員の課題解決方法に共感したり、良い点を伝え合ったりすることで意思決定した内容を実践しようとする意欲を高める。

最後によりよい学級づくりに向けた課題解決方法の実践について、良かった点や課題点を整理し、今後の改善につなげる（メタ認知の視点を生かした振り返り）。このようなR-PDCAサイクルの視点を生かしていきたい。

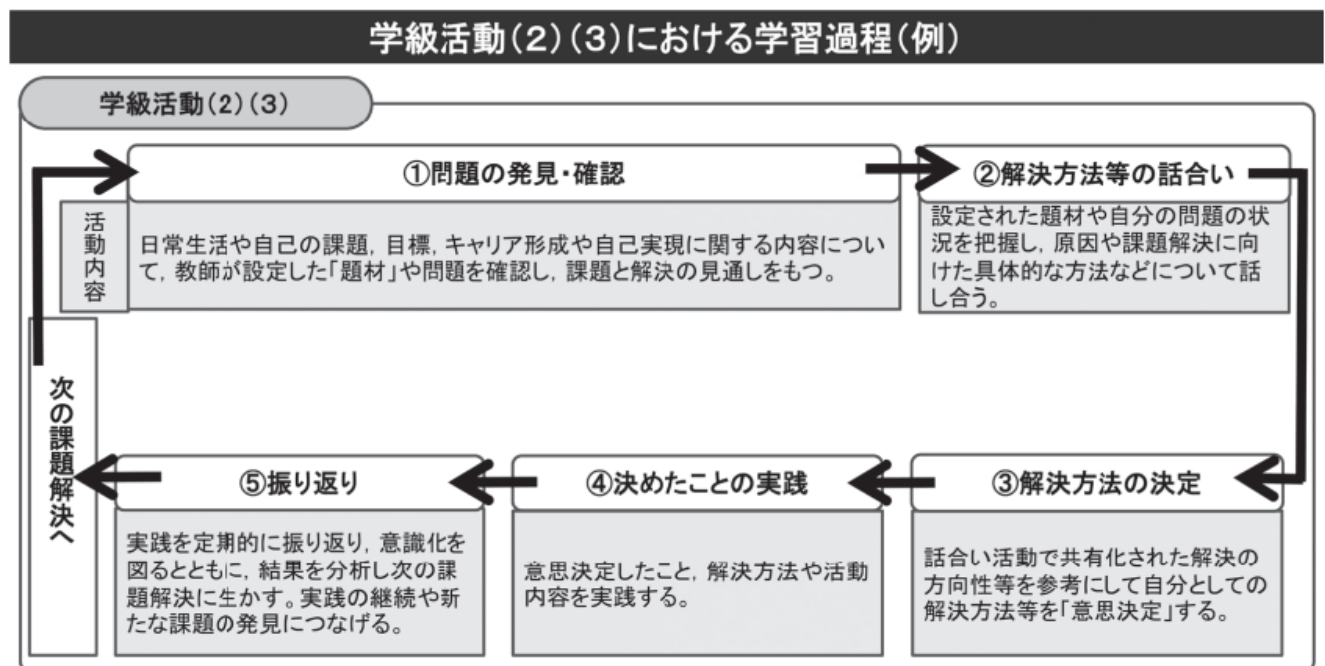


図1 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編で例示された学習過程（例）

3 題材の評価規準（内容のまとめりととの評価規準）

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
①よりよい学級について考える意義を理解している。 ②よりよい学級づくりのために必要な知識を身に付け、それを実践するための方法を決定できる。	①よりよい学級にするための自己の課題を見いだしている。 ②多様な意見や考えを基に、よりよい学級にするための課題解決に向けた意思決定をしている。	①他者とよりよい学級にするために必要なことを考えたり意思決定したりしようとしている。

4 研究主題との関連

(1) 研究主題

学級活動を生かしたよりよい人間関係づくりの推進
ー生徒のコミュニケーションスキルを高める活動を通してー

(2) 研究主題について

- ① 「学級活動を生かした」とは、特に学級活動の視点にある「よりよい人間関係形成」に焦点を当て主題に迫ること。
- ② 「よりよい人間関係」とは、生徒が他者を尊重したり思いやりを持ったり、互いのよさを認め合ったりしながら、課題に対して協力できる関係を築くこと。
- ③ 「コミュニケーションスキル」とは、人と人が互いの考えや感情などを伝え合う方法のこと。また、確かな自己理解、他者理解に基づいて、伝えたり受け止めたりする方法のこと。

(3) 主な手立て

① R-PDCAサイクルと図1を生かした学習過程

生徒の実態を把握するために日頃の生徒の様子を学級担任だけでなく、教科担任等を含めて情報共有したり、生徒にアンケートを実施したりする。生徒が題材に対して問題意識を持てるような事前の指導を行う。事前の指導では、学級委員等と一緒に学級の現状を確認し、その内容を全体に共有することで生徒の問題意識の向上を図る。本時では自己の課題を分析するために、事前アンケートの結果を参照したり、テキストマイニングを活用したりする。生徒は自己の課題を認識し、課題解決に向けた意思決定を行う。事後の指導では、生徒が自分の課題を理解し、解決に向けて実践し、実践結果を振り返り、自己を客観的に評価することで次の課題解決につなげていく。

② 他者参照を取り入れた対話的な学習活動

自己との対話（自分の考えをしっかりとまとめる、振り返りの時間を確保する等）や他者との対話を行う時間を十分に確保する。オンライン表計算ソフトを活用して、生徒は常に級友の課題や課題解決方法を他者参照できるようにする。他者参照させることで効率よく多様な考えを参考にし、よりよい課題解決に向けた意思決定につなげられるようにする。

5 本時のねらい

生徒一人一人がよりよい学級にするための自己の課題を考え、よりよい課題解決方法を意思決定できるようにする。

6 事前の指導

以下の指導を行うことで生徒に本題材の必要感や有用感を持たせ、本題材に対する生徒の意欲を高める。

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
①学級委員と班長で学級の実態について考える。 (朝の会、帰りの会)	・10分程度で行う。 ・生徒の率直な考えを共有できるよう、少人数で話し合う。 ・教師がよりよい学級を目指すため、学級活動を計画していることを伝える。	
②級友との関わりに関するアンケートを行う。 (朝の会、帰りの会)	・教師がよりよい学級を目指すため、学級活動を計画していることを伝える。 ・教師がよりよい学級を目指すために活用するアンケートであることを確認する。	①よりよい学級について考える意義を理解している。 【知識・技能】〈観察〉

7 本時の展開

	学習活動	○指導内容 ●指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ 6分	1 事前アンケートの結果を全体で確認する。 (2分)	○コミュニケーションスキルについての向上が見られるものの、「クラスの人から好かれている、仲間だと思われていると思いますか」「クラスの中にあなたの気持ちを分かってくれる人がいると思いますか」の項目について、「とてもそう思う」の回答が減少していることを確認させる。	
	2 学級目標を全体で確認する。 (2分)	○学級目標「明るく笑顔でハッピーが溢れる1年1組」に込められた意味や願いをペアや全体で確認させる。	
	3 本時のG（ゴール）を全体で確認する。 (2分)	○本時のG（ゴール）を確認する。	
	G：学級目標を達成するために一人一人が課題を設定し、課題を解決するための方法を決定できる。		
展開 さぐる 10分 見付ける 18分	4 学級目標を達成するために必要なことを個人やペアで考える。 (5分)	○ペアでの話し合い後、個人でテキストマイニングに入力させる。	
	5 4で集約された内容を全体で共有する。 (5分)	○気付いた点などをペア共有させる。さらに、数名を意図的に指名し、全体で共有させる。	
	6 自己の課題を設定する。 (3分)	●課題の設定について4の内容を参考にしてもよいことを伝える。	
	7 個人で課題解決方法について考える。 (5分)	○生徒にオンライン表計算ソフトに入力させる。 ●教師はその様子をタブレット端末上で確認し、必要に応じて個別の支援を行う。 ●オンライン表計算ソフトを活用し、生徒が他者参照できる状態にする。	
	8 3～4人のグループになり、自己の課題解決方法と理由を発表する。 (10分)	●生徒が主体的に話し合い活動できるように以下のように指示する。 ・一人一人が自己の課題と課題設定の理由を発表する。 ・発表に対して班員は共感したり質問やアドバイスをしたりする。 ・進行や時間配分は班で考える。時間は10分とする。	①他者とよりよい学級を形成するために必要なことを考えたり意思決定したりしようとしている。 【主体的態度】 〈観察〉

決める 6分	9 よりよい自己の課題解決に向けた意思決定を個人で行う。 (6分)	○生徒にオンライン表計算ソフトに自己の課題解決方法を入力させる。 ●入力する際に8の活動で気付いたことを生かすよう伝える。 ●生徒がオンライン表計算ソフトに入力している様子をタブレット端末上で確認しながら、必要に応じて個別の支援を行う。 ●オンライン表計算ソフトを活用し、生徒が他者参照できる状態にしておく。	
終末 10分	10 本時の授業の振り返りを個人でオンライン表計算ソフトに入力する。	●振り返りの視点を示す(学んだことや課題解決に向けて意思決定した理由等)。 ○生徒数名を意図的に指名し、振り返りを発表させる。 ○生成AIを活用し、全生徒の振り返りを要約する。最後に要約した内容を全体で共有する。 ・生成AIへのプロンプト 「以下の内容を要約してください。」(全生徒の振り返りのテキストを生成AIのプロンプトにコピーアンドペーストする)」	②よりよい学級づくりのために必要な知識を身に付け、それを実践するための方法を決定できる。 【知識・技能】 〈オンライン表計算ソフト、観察〉

準備物：①教師：アンケート結果、タブレット端末、プロジェクター、スクリーン、タイマー

②生徒：タブレット端末

8 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる (A)	努力を要する生徒 (C) への手立て
互いのよさを生かす関係をつくるための知識・技能	・よりよい学級づくりのために必要な知識を身に付け、それを実践するための方法を決定できる。	・よりよい学級にしていくための自己の課題解決方法について理由を明確にしながら発表しようとしている。 ・班員からの質問等を踏まえ、自己が設定した課題解決方法を見直そうとしている。	・課題解決方法や理由が入力できていない生徒とテキストマイニングの結果を踏まえながら対話をする。 ・オンライン表計算ソフトを確認し、他者参照するよう促す。
主体的に多様な他者と関係をつくろうとする態度	・他者とよりよい学級を形成するために必要なことを考えたり意思決定したりしようとしている。	・よりよい学級にしていくための自己の課題解決方法の設定理由や設定までの思考の過程をまとめている。	・オンライン表計算ソフトを確認し、振り返りの記入ができていない生徒と本時の過程について対話をする。

9 事後の指導

生徒が7で意思決定した内容の修正や実践意欲の継続、新たな課題の発見につなげるR-PDCAサイクルの視点から、以下の指導を1か月に1回程度実施する。

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
①よりよい学級にするために意思決定した内容が実践できているか等のアンケートを行う。 (朝の会・帰りの会)	- 意思決定した内容をオンライン表計算ソフトで確認する。 - オンラインアンケートフォームを活用する。	①よりよい学級にするための自己の課題を見いだしている。 【思考・判断・表現】 〈オンライン表計算ソフト、観察〉
②アンケート結果を全体で確認し、ペアで話し合う。 (朝の会・帰りの会)	実践を振り返らせる。	
③実践の振り返りから、必要に応じて意思決定した内容を修正する。 (朝の会・帰りの会)	- 意思決定した内容について、達成状況を確認させる。 - 達成状況を踏まえ、必要に応じて、意思決定した内容を修正するよう伝える。	②多様な意見や考えを基に、よりよい学級にするための課題解決に向けた意思決定をしている。 【思考・判断・表現】 〈タブレット入力内容、観察〉

10 板書計画

スクリーン表示内容 - オンラインアンケートフォームの結果 - テキストマイニングの結果 - オンライン表計算ソフトの画面 - 学習活動8の進め方 - 振り返りの視点	G：学級目標を達成するために一人一人が課題を設定し、課題を解決するための方法を決定できる 生徒の発言や考えを板書する 内容 - 学級目標の意義や意味 - 他者参照の意義や意味 - 生徒の発表内容
--	--